

項目	評価の観点	評価		項目に関する分析・意見・提言 など 職員 ◇学校関係者（地域等）	今後の改善に向けて
		自己 (職員)	学校 関係者		
確かな学力と個性を伸ばす教育の推進	主体的・対話的で深い学び	互いに認め合う支持的風土を育てる学級・学年集団づくりに努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○唐崎小の学び合いのスタイルの提示が、授業中などの確認や、子どもの意識の高まりに生かされた。 ○ペアやグループでの話し合いを用いた学習を取り入れて授業を組み立てるよう意識できている。 ○「学び合い」を中心とした授業づくりをどんな教科でどんなタイミングで取り入れていくべきか、まだまだ実践し考えていきたい。また、基礎固めにも着目したい。 ○「めあて」を振り返りに活用できていると思う。 ○次年度以降、学習指導要領の実施に伴い、3観点の評価の在り方や主体的対話的で深い学びの追求についての研修が必要。 ○ほっとハートプロジェクト等、児童自身の活動による向上策が仕組めた。 ○校内の研修だけでなく校外の研修にも積極的に参加している。 ○学級会などの話し合い活動を工夫した。 ○グループでの学び合いは、教える方がわかっていないとできないので、お互い勉強になる。 ○「学び合い」の考え方が定着しつつあると思います。学力向上の成果が目に見えてくることを期待する。 ○机の配置を工夫して、グループで話し合うことでお互いの意見を聞くようになってきており、「学び合い」の考えが理解されてきていると思う。 ○「学び合い」スタイルの継続と常に向上意識をもって取り組んでほしい。 ○児童自身の活動による「認め合い」の集団作りは高く評価できる。 ○グループ討論や集団発表の授業を多く取り入れている。 ○意見は十人十色であり、話し合いの大切さを理解する良い機会である。また、児童の個性も知ることできる。
		協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。			
		「めあて」「ふり返し」や学び合いを取り入れた授業づくりを行うなど、主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会に取り組んだ。			
	道徳教育の充実	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動を工夫した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳科の教材・資料が残っているが、今の児童に合わせた（合った）ものを残したり、日々の授業で使ったものを保管したりすることが大切。資料の整備が行き届いていないので進めていきたい。 ○道徳参観は保護者に日々の様子を見てもらうことができるので続けていってほしいと思う。さらに連携を深めていくために、道徳ノートの週末持ち帰りなどを提案していきたい。 ○学年の中で授業内容について話し合うことができた。 ○道徳が教科化されたことにより、年間通してさらに計画的に行えるようになった。 ○子どもからのささいな話に対してもしっかり聞き取って対処した。 ○道徳を毎週は全員ができていないことが課題である。 ○道徳が教科化されたからの期間が短く、特に道徳教育を受けていない若い先生方は苦勞されているかとは思いますが、順調に前進しているように思う。 ○道徳という言葉の意味よりも人を思いやる気持ちを自然にもたせることが大切であると思う。集団登校においても友達や小さい子を思いやる様子が見られあいさつもできるように良好である。 ○道徳参観は継続して実施し、参観者にも参画できるような時間を設けてはどうか。 ○教科化されたことによる指導要領があるのだから、教材等毎時の不備の改善を望む。 ○道徳は、個性や人格の形成・判断力の向上・命の大切さ・いじめ問題など、人間社会において大切な分野であり、引き続き重視していただきたい。 ○道徳の授業のみならず普段の学校生活の中で、常日頃から意識して教育していただくよう要望する。
		道徳科の教材、評価に関する研究を行い、資料の整備・交流に努めた。			
		道徳科の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。			
	体力づくり	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年ダッシュタイム、ランランタイムでよるこんで体を動かす児童がたくさんいる。 ○汗をかく、がんばるなどのすばらしさを自覚できている。 ○子どもの意識を高めて取り組む姿を今も覚えている。 ○「体を動かす気持ちよさ」をどのようにして体験させているのか、何をしていたのかよく分からない。 ○時期に応じ学習や取り組みの内容を工夫した。季節に応じてダッシュをしたり縄跳びをする現状を変えたりすることで進んで運動に取り組むよう努められた。 ○毎日の体育の宿題の取り組みについて助ましの言葉を多くした。 ○体育はよく体を動かしているが、夏は日焼け、冬は寒いのを外に出ない教人は毎日体を動かしていない。 ○委員会で積極的に取り組むことができる。苦勞の手もやる気になっている。 ○放課後に体を動かす場所や機会が時代や住環境の変化で失われている。学校内での体力向上に向けた時間の確保の重要性が高まっていると思う。 ○体育の時間はともかく、子どもたちが外で遊ばなくなっているのは明白である。家の中で1人でゲームを楽しんでいるという傾向はますますひどくなってきている。地域の方でも屋外活動に引き出す工夫をしたい。
		ダッシュタイムなど、運動に親しむ環境づくりや体力づくりを推進する運動実践に努めた。			
		体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。			
	指導改善（組織的・計画的）	指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「働き方改革」といつつ授業の準備に時間がかかってしまう。ちょっとしたアイデアなど子の学びにつながる術を共有していけたらと思う。 ○今までの行事の質を落とさないというのは不可能だと思います。 ○削減、効率化をさらに進められると良い。 ○定着力が弱いのて日常から繰り返し学習を大切に取る組んだ。 ○学習指導要領と教員配置がリンクしていない。必要業務と予算配分に整合性がありません。唐崎小学校の問題ではなく大津市全体に関わるものと思う。 ○先生によって多少バラツキがあるが、教え方にいろいろ工夫されている様子が見える。必ずしも一律である必要はなく、先生の個性が出せてもよいと思う。教え方を考える時間を取るようにしてほしい。 ○学力がせめて全国平均以上になるよう、あらゆる改善策や指導に取り組んでほしい。 ○市長も交代し教育行政も変わるだろうから大いに行政に申しすべきである。
学校全体として指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。					
働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めた。					
育ちと学びを支える連携	保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連携を密にして、子どもの作品やまとめを通して学級での姿を伝えた。 ○不安感の多い保護者とは、交換日記的な対応も試みた。 ○安全マップは自分の住んでいるところを知るのに良いものだと思う。マップを各家庭に配布して欲しい。 ○実被害が発生していないものの、不審者情報が多数あり、特に下校時の防犯面に懸念があります。スクールガードの組織を活用し、PTA・子ども安全リーダー・民児協・自主防犯・交通安全協会等の個別の見守り活動を統合的な活動にすべきたと思う。 ○地域の安全マップ作りや、お年寄りから体験談を聞くなど、地域との連携は少しずつ密になってきていると思う。このような機会を増やしていくのがよいと思う。 ○道徳参観や授業参観に多くの保護者が見えているので、授業後たとえ数分間でも、学校・保護者とのやりとりの場を設けてはどうか。 ○保護者が授業に参加する参観日では、実際に担任の指導を体験できたように思えた。 	
	ファミリー学習参加や地域安全マップなど、保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域人材の活用を努めた。				
	家庭・地域と連携しながら防犯・防災教育の推進を図るため、メール配信やホームページなどを活用して情報発信をし、安心・安全な学校づくりに努めた。				
保幼小中の連携	保幼小中の連続性を意識し、子どもの校種間交流や教師の出前授業などの具体的な連携に努めた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保幼小中の園の数や人数が増えている現状を考えると、交流のあり方も考え直す必要があると感じました（秋祭り・わくわく教室等） ○子どもの実態から意見を交流し、よりよい指導を追求してきた。（事例研究） ○中学校の先生が6年生の授業を先立参観に来られた。一方で、小中の教師間の交流の場は少ない。 ○小中で児童生徒の姿を参観し、情報共有できることは大きい。得られた情報をお互いの学校で生かせること（人間関係、学習など）。支援が必要な子どもが多く在籍している。中学校の先生に見てもらい伝達することができている。 ○中学校の先生による6年生児童の参観により児童理解に努めた。 ○出前授業を実施し、小中のスムーズな接続に努めた。さらに今年度は会場を小学校にすることで授業時間を確保した。 ○幼稚園の体力テスト等の行事を手伝いに行くことで参観し、児童理解に努めた。 ○秋祭り等で園児が来校した際には、生指・管理職も参観した。 ○人権教育研究会の存在意義が低い。 ○唐教研の参加率が悪い（特に平日開催）。唐教研自体の在り方を見直すべき。 ○唐教研については、活動の在り方について考えていく時期であると思う。 ○地理的な利便性もあり、保幼小中の連携は良好と思う。特別支援教育の需要が今後さらに増えると考えられるので、滋賀大学附属特別支援学校との連携を更に深めていければと思う。 ○どのような子どもに育てたいかという点では、一貫性をもって個々の成長に合わせて指導していくということが大切だと思う。全員の見込みがそうすることは難しく、そのバラツキをうまくフォローできる方法を考えてほしい。 ○意図的に取り組まれている。今後も改善点を見つけながら連携強化を図り、学力向上に取り組んでほしい。 	
	唐崎人権教育研究会（唐教研）など、保幼小・小中の校種の枠を超えた合同研修会を実施した。また、保幼小連絡会、小中連絡会、体験入学の際など、校種間の授業公開に努めた。				
	保幼小連絡会、小中連絡会、体験入学の際など、校種間の円滑な接続に向け、教育内容、効果的な支援などについての交流に努めた。				
組織体制の充実	日ごろから子どもとの関わりを意識的に高め、子どもが気軽に相談できる雰囲気づくりなど、諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教務が担任や対象児童の状況を常に把握できるよう連携を密にしている。更に、情報共有・共通実践のための教務部会を定期的に実施できればと思う。 ○問題行動、課題の裏には学校外の要因も大きいので、保護者と連携し情報を集めて子どもたちとかわかるところが大切。 ○家庭での様子などで、朝の会や給食時間に話を聞き、日常的な指導に生かしてきた。 ○いじめ対応、生徒指導対応で学年と担当との温度差がある。機械的に行うのではなく、その児童、その過程に応じた対応をしていくべきである。 ○事案発生時の対応の流れや体制の在り方について、確認・合意することが大切。 ○問題行動や行き渋りの児童がいたとき組織的に指導を行うことができた。 ○休み時間には教室にいて、気軽に話ができる時間としている。 ○週ごとに学校全体で情報共有したり月毎に学年で振り返りを行うことで、児童の変化について細やかに見守った。 ○問題発生時には、学校・担当・管理職で連携し、学校としての対応に努めた。 ○上記の対応により、大きな問題が減少傾向にある。 ○いじめ事案については、保護者との情報共有を基本とし、保護者と連携して再発防止に努めた。 ○くらしの約束や長期休業中の過ごし方については、児童への指導だけでなく保護者にも確認していただくようにした。 ○問題行動等に対して、関係機関を最大限活用し、基本的な人格を小学校時代に育成できることを望む。 ○小さな兆候も見逃さず、学校全体で即応体制で取り組んでほしい。 ○問題行動など個別対応が必要な児童に関して、保護者に対する情報提供や個別相談などしっかりなされていた。児童の指導のみならず保護者に対する不安事象の解消にも努めていた。 ○大きないじめやケンカは減少していると思う。引き続き日頃からの指導にあたってほしい。 	
	問題行動や不登校などの課題に対して、学年・担当と共に組織的な指導・支援ができた。				
	あいさつ運動、子どもくらしのやくそく、いじめ対応など、家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。				
特別支援教育の充実	支援を要する児童の個別の指導計画を作成・活用し、支援に努めた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○巡回相談等を活用し助言を生かして指導の充実が図られている。 ○個別指導計画の立て方や保護者への開きや仕方などももう少し年間通して円滑に有効に使える手立てを考える必要がある。 ○巡回相談をきっかけに支援の在り方を広めることができた。 ○どれもよくできている。 ○学習室での対応はともな難しい。子どもも保護者も喜んでいる。一方、困っている子すべてには対応できないので、放課後学習的なことで対応することができれば。 ○手厚く対応されていると感じる。特別支援教育の需要が今後更に増えると考えられるので、地理的に有利な立地にある滋賀大学附属特別支援学校との連携を更に深めていただければと思う。 ○支援を要する児童が増えている現状下、学校側の現状・実態を行政に発信し、専門職・指導員の確保・養成、待遇面の改善等継続して要望することがたいせつである。 	
	組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努めた。				
	巡回相談などを活用し、関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。				
					<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領のスタートを機に、これまで本校が実践してきた「学び合い」の取組をさらに深めていくとともに、唐崎の児童の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を育む授業の在り方を追究し、授業改善に積極的 ・他校での実践例も参考にしながら校内研究を組織的かつ継続的に進める。
					<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者との連携をさらに図っていくため、引き続き道徳参観を続けていく。 ・授業のさらなる充実のために、学年や部会での情報共有をより密にしたり、資料の整理や改善を行ったりしていく。
					<ul style="list-style-type: none"> ・ダッシュタイム、ランランタイムなど、児童が意欲的に体を動かす機会を今後も定期的に設けることで、体力向上につなげていく。 ・研修会などを通して、指導方法を共有できる場を増やしていく。
					<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るだけでなく、発展的な問題も意図的に取り組むなど、学ぶ意欲の向上を図る。 ・子どもたちが主体的に学ぶ習慣づくりを進める。 ・研修会やOJTの取組等を生かして組織的に指導力向上を図る。 ・学力向上につながる取組（階段掲示・唐崎クイズ王など）を進める。 ・余裕を持って授業改善や児童理解に努められるよう、新学習指導要領のねらいに即して学校行事を検証していく。
					<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学習参観の機会を生かして、保護者や地域への学校公開の場となるよう在り方の工夫をする（道徳参観や学び合いの参観など）。 ・保護者、地域との連携に向け、HPを有効に活用していく。 ・コミュニティスクールと連携して、地域人材を活用していく。内容についてもカリキュラムをもとに精査していく。 ・メール配信等により地域・保護者へ啓発し、児童への適切な指導を随時行い、安全への意識を高める。
					<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始時からの状況の変化や園数の増加を鑑み、各園の意向を十分聞き取った上で保幼小連携行事の見直しを検討する。 ・担当を中心に小中職員の手打合せを定期的に設け、情報の共有に努める。 ・連絡会での引き継ぎの際にはSC等の見立ても活用し、両校種職員で児童の十分な理解に努める。 ・唐教研については、児童・教師・保護者にとってよりよい機会となるように今後の事務局会で提言していく。 ・小中の連携については、一方の身ではなく双方の意向を反映させながら連携を進めていく。同時に、保幼小連携についても学校の意向を示し、一方で保幼小の意向を確認してより良い在り方を検討しながら連携を進める。
					<ul style="list-style-type: none"> ・組織としての対応の継続と強化。 ・いじめ等の対応については、保護者との情報共有を基本とし、保護者と連携して再発防止に努める。また、これについて周知を図ることで、学校と保護者の円滑な連携の風土を作る。
					<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を見直すとともに、保護者に対して個に応じた支援の計画を見直しを持って進める。 ・巡回相談等での指導を全体に広げて、共有できるように発信する。